

提携米通信

2012年9月号・黒瀬農舎



猛暑の中のヒエ取り 012.08.28 黒瀬農舎無農薬田

猛暑の中で草取り作業再開

7月は、種まき以降続いた低温悪天候が一変して、日中は暑く、夜は肌寒いほど気温が下がる、作物にとって理想的な素晴らしい日が続きました。

お陰で、6月までの悪天候で生育が遅れていた稲はみるみる回復し、穂が出始めた8月初めには、近年にない素晴らしい姿に育ち

ました。

その上、今年の7月の好天は、湿度が低かったため病害虫の発生が抑えられました。

私たち農薬を使わない生産者にとっては、病害虫の発生がないことは、何にも増して嬉しいことです。

ところが「過ぎたるは……」にぴったり、この7月はじめからの「好天」は止まり知らずで、8月は酷暑の連続。夏は過ごしやすい北国秋田では経験したことのない記録的な猛暑です。

冷害が出る「冷夏」に比べれば欲は言えませんが、この長期間の猛暑で稲もだいたいバテ気味で、斑点米の原因となるイネカメムシも大発生の様子です。

ところで、8月初めから田圃の水を落とす時期を迎え、田圃が乾くまで一時中断していた草取りを、上の写真のように再開しました。

お盆過ぎからの後半の草取りは、硬くなった田圃を歩くことになり、背丈が伸びた稲よりも高いヒエなどの雑草を取るのですから、前半の泥田の中の前かがみ姿勢の草取りよりも格段に楽な仕事となります。

その上、例年のこの時期は、心地よい秋の気配を感じるそよ風を肌に受けるのですが、今年は8月末になっても真夏のままで汗だくです。

この後半の草取りは、雑草の種の落下を防ぎ、来年の雑草発生を抑えるために重要です。

草取りに頑張ってくれる女性が熱中症にならないよう、アイスクリームや西瓜の差し入れに気を使っています。

今年の稲刈りは10月始め頃から始まり、皆さんに新米がお届け出来るのは10月中旬過ぎになりそうです。どうぞご期待下さい。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

国際穀物相場高騰中



大曲花火競技回 012.08.25

夏の風物詩の一番は、何といっても花火大会。私たちの近くでは、東北で最大規模の「大曲花火競技会」が有名です。

大曲の花火は、スポンサーが提供する普通の花火大会ではなく、煙火業者（花火師）が競技する方式という珍しいスタイルで、人出は毎年70～80万人という盛大なものです。

過去に1、2度訪ねたことはありますが、車で行けば、混雑渋滞で明け方まで帰れない。

列車で行けば、満員すし詰め。

また、観覧席の枚数は、倍率が高く、発売即完売で、少々のことでは手に入らない。

こんな訳で、見応えはあるのですが、なかなか行くチャンスはありませんでした。

ところが、競技会の前日、花火の地元に住む友人から「確保していた枚数席が数席空いた」と突然の誘いが舞い込みました。

早めの時間に妻と二人で会場へ向かいましたが、予想通り電車は満員。

駅から河川敷の会場までの距離も相当あり、この日（8月25日）も暑く、枚数に着いた時はすでに汗だくでクタクタ。

でも、始まってみると迫力満点、実に綺麗でした。

ところで、表のページのように、私たちの地域も今年は雨がほとんどなく猛暑酷暑の連続ですが、アメリカの穀倉地帯も、数十年ぶりの大干ばつ、熱波に襲われているようです。

このため、トウモロコシの大不作は、ほぼ確定され、トウモロコシを始め国際穀物相場は大高騰しています。

国際穀物先物市場は、トウモロコシに引きずられ、まだ不作が確定していない大豆や小麦など麦類も日に日に高騰しているようです。

高騰は穀物を利用する家畜飼養者や食品関係業者を始め一般消費者にとっても困ったことです。

しかし「物が不足すれば価格が上昇し、物が余れば価格が下がる。」という市場原理が働いて、来年のアメリカなどでのトウモロコシの作付は大幅に拡大されるはずだ。

それだけでなく、季節が逆の南半球では来年といわず今年から大幅に生産増強されるはずであり、市場経済システムは合理的に機能すると見られます。

このように、物の過不足により価格が上下し、価格上下によって需給が自動的にコントロールされることは、経済の活性化にとっても効用があります。

ところが最近の石油や穀物市場は投機資金が主導するようになり、需給実態の数十倍もの価格の乱高下が引き起こされていると言われています。

今回勃発しているアメリカ大陸の大干ばつによるトウモロコシを始めとした国際穀物相場の必要以上の高騰の原因も、投機先を失った余剰資金による金融資本主義者によって翻弄されているようです。

人々の生死に直結する食糧を、金を金で売買して儲けたり、石油利権を手に入れるため政府を動かし戦争までも仕掛けるといった金融野蛮人の餌食にされない国際的な経済システムを早く構築する政策が待たれます。

かって野田さんを始め松下政経系の政治家に期待した有権者は多かったのですが、この人々は期待に応えないどころか、この系統の人々には旧来の政治家にも増して、金融資本主義が問題であるという思想感覚がほとんどないようです。